

# 平成28年度領土・主権関連の事業成果について

## 調査報告書等の公表

### 1. 尖閣諸島及び竹島に関する資料調査報告書(英訳版含む)

○尖閣諸島及び竹島に関連する資料、文献を調査し、目録の作成・デジタル画像データ化を実施。

○尖閣諸島については約330点、竹島については約340点の資料を調査。

※掲載先:領土・主権対策企画調整室ウェブサイト(日本語版)

(尖閣諸島)<http://www.cas.go.jp/jp/ryodo/report/senkaku.html>

(竹島)<http://www.cas.go.jp/jp/ryodo/report/takeshima.html>

領土・主権対策企画調整室ウェブサイト(英語版)

(尖閣諸島)[http://www.cas.go.jp/jp/ryodo\\_eg/report/senkaku.html](http://www.cas.go.jp/jp/ryodo_eg/report/senkaku.html)

(竹島) [http://www.cas.go.jp/jp/ryodo\\_eg/report/takeshima.html](http://www.cas.go.jp/jp/ryodo_eg/report/takeshima.html)



平成28年度 内閣官房委託調査  
竹島に関する資料調査報告書

### (2) 領土・主権に関する論文の英訳事業

○我が国の領土・主権に関する論文を英訳し、発信。

○英訳論文

①「クガドゥンのお話」 國吉まこも(尖閣諸島文献資料編纂会)著

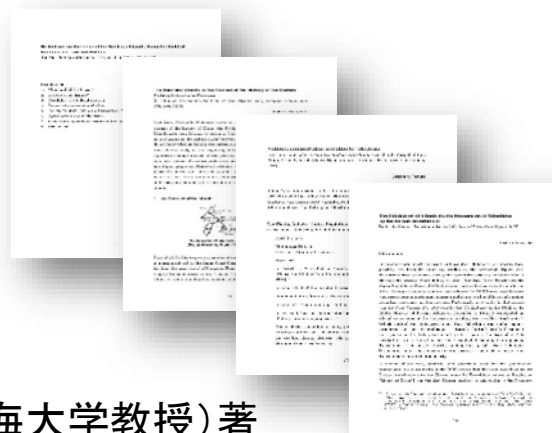
②「中国・明時代の支配域は? 古文献に見る尖閣諸島の歴史的経緯」  
美根慶樹(平和外交研究所代表)著

③「竹島紛争」 太寿堂鼎(元京都大学名誉教授)著

④「竹島領有権をめぐる韓国政府の主張について:

政府広報資料「韓国の美しい島、獨島」の逐条的検討」 塚本孝(東海大学教授)著

※掲載先:日本国際問題研究所ウェブサイト(領土・海洋コーナー) <http://www2.jiia.or.jp/RYOD/>



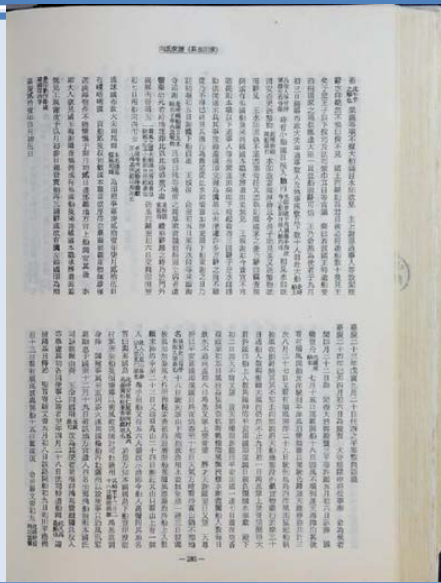
# 尖閣諸島に関する資料調査

尖閣諸島の領土編入を行う前の1885年から1972年（沖縄返還）の時期を中心に、沖縄県・九州各県・東京都にある約330点の資料の所在を確認し、目録及び画像データを作成。うち、今回の報告書に18点の資料を掲載。

## ＜今次報告書における主な掲載資料＞

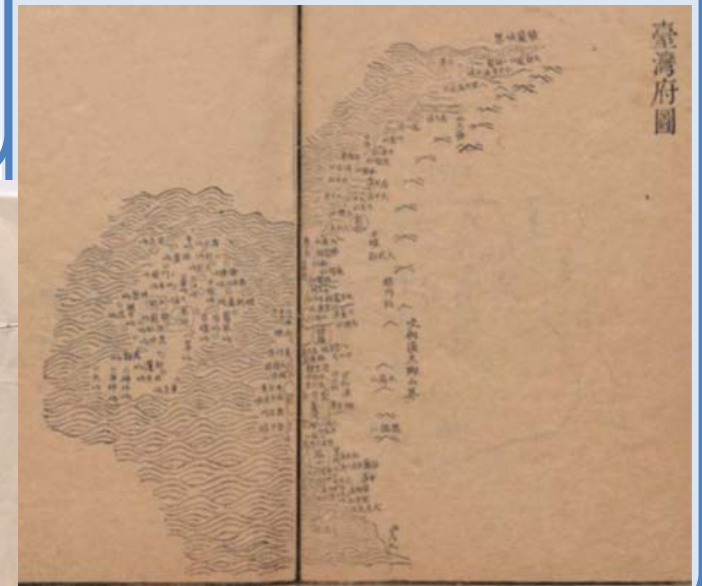
### ①琉球の系図家譜 （向（しょう）姓具志川家家譜 十二世諱（いみな）鴻基（こうき））

荒天により漂流し、尖閣諸島を経て与那国島へ流れ着いた薩摩船に関する記録（尖閣諸島への最古（1819年）の上陸記録（1845年のイギリス人上陸より26年早い）と考えられる。）。



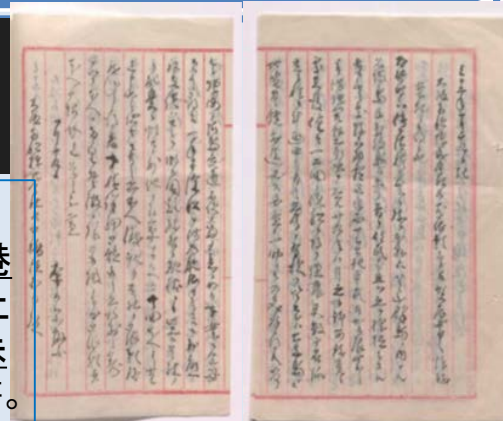
### ③一統志（中国の官製地誌） （大清一統志（1744年）ほか）

清の時代においても、その領域は台湾の西半分までにとどまり、尖閣諸島は清の版図として認識されていなかったことが明確にわかる資料。



### ②横内家文書 （久場島への寄港に付き古賀辰四郎より願 の件（1899年（明治32年））

古賀辰四郎が尖閣諸島開拓のために求めていた尖閣諸島（久場島、魚釣島）への寄港について、奈良原繁沖縄県知事が当時本土—台湾間で船舶を運航していた大阪商船株式会社の社長宛てに働きかけを行った文書。



# 竹島に関する資料調査

江戸時代以降、1950年代までの時期を中心に島根県・鳥取県・東京都等にある約340点の竹島に関連する資料の所在を確認し、目録及び画像データを作成。うち、今回の報告書に12点の資料を掲載。

## ＜今次報告書における主な掲載資料＞

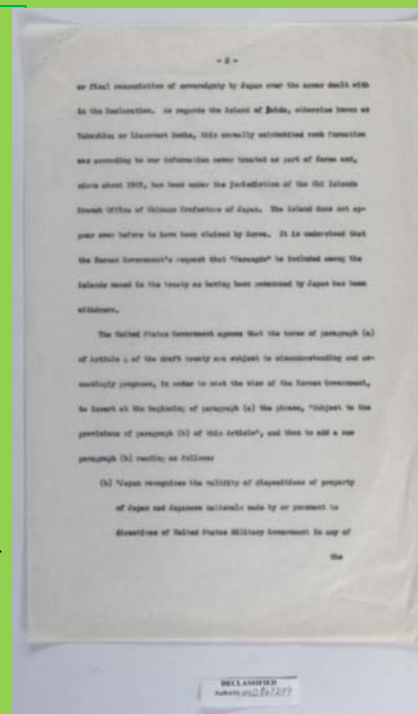
### ①竹島の名称に関する読売新聞の解説(1905年(明治38年)7月)

当時リアンコルト岩と呼ばれていた島(現在の竹島)が以前から日本の漁夫に知られていたこと、また、その島が正式に竹島と名付けられたことなどを伝える資料。



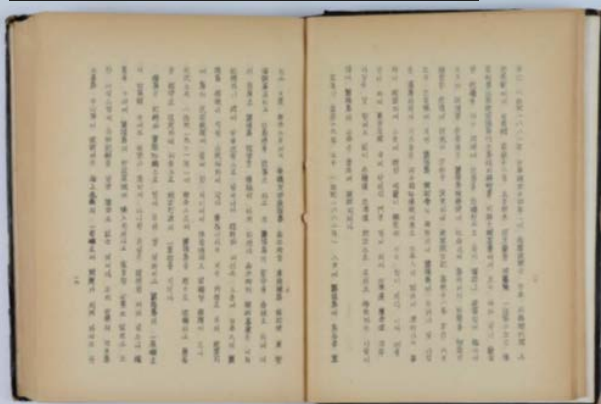
### ③ラスク書簡(1951年(昭和26年)8月)

サンフランシスコ平和条約の起草時、韓国は米国に対し、書簡で日本が放棄すべき地域に竹島を加えるよう米国に要請したが、米国は、竹島は「朝鮮の一部として取り扱われたことが決してなく、...かつて朝鮮によって領有権の主張がなされたとは見られない」として、韓国の主張を明確に否定した。1951年(昭和26年)8月10日付米国务省ラスク極東担当国务次官補発梁駐米韓国大使宛書簡。



※今回、米国国立公文書館(NARA)にて原本を初めてデジタル化して入手

### ②獨島問題概論(1955年)



韓国外交部が竹島を韓国の領土であると主張するためにまとめた書籍。その中で、竹島が「鬱陵島の行政区画に編入されたことが明示された公的記録が無い」と記述するなど、韓国側の主張には「根拠」がないことを逆に示している。



# 我が国の領土・主権に関する論文等の英訳・発信事業

平成28年度英訳論文(4本)

## 尖閣諸島

### ①「クガドゥン※のお話」

國吉 まこも(尖閣諸島文献資料編纂会)著  
要旨:尖閣諸島を開拓した古賀辰四郎について、人となり、実業家としての活動、尖閣諸島開拓の概要などを様々なエピソードを交えながらまとめたもの。

※石垣島にあった八重山古賀商店の現地での敬称  
(古賀殿、古賀支店のこと)

### ②「中国・明時代の支配域は？ 古文献に見る尖閣諸島の歴史的経緯」

美根 慶樹(平和外交研究所代表)著  
要旨:中国が明時代にどこまでを領域としてとらえていたかについて古文献を読みとき、尖閣諸島が明の支配域ではなかったことを結論づけるもの。

## 竹島

### ③「竹島紛争」

太寿堂 鼎(元京都大学名誉教授)著  
要旨:執筆当時の竹島紛争の概略の記述、安童福事件を含む竹島に関する歴史的事実の分析、韓国側主張の脆弱性の指摘、詳細な国際法的評価などを行った上で、建設的な紛争解決を目指すもの。

### ④「竹島領有権をめぐる韓国政府の主張について：政府広報資料「韓国の美しい島、獨島」の逐条的検討」

塚本 孝(東海大学教授)著  
概要:竹島に対する韓国政府の主張(政府広報資料『韓国の美しい島、獨島』)を正面からとりあげ、そのなかの主張ひとつひとつに丁寧に反論を行っていくもの。